



● NIFS GALLERY
本学にゆかりのあるオリンピック選手のメダルやユニフォーム、研究成果のパネルなどを展示(2011年に開学30周年を記念して開所)



● 海洋スポーツセンター 錦江湾に面した鹿屋市高須町に位置

・敷地面積 370,685 m²
白水地区 364,362 m²
高須地区 6,323 m²
(海洋スポーツセンター)
・白水地区
屋外体育施設敷地面積 168,701 m²
屋内体育施設延面積 12,869 m²



● 柔道場(武道館1F)

多目的グラウンド

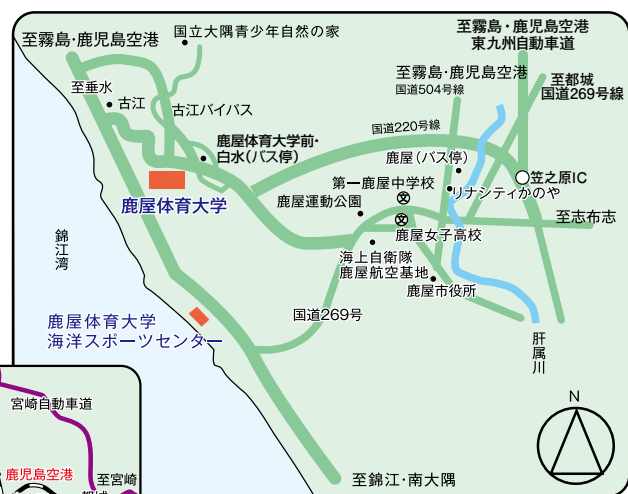
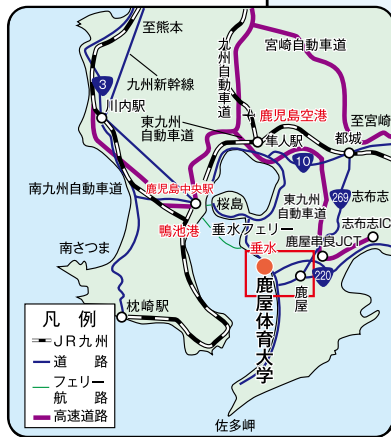


● 屋内実験プール

位置図

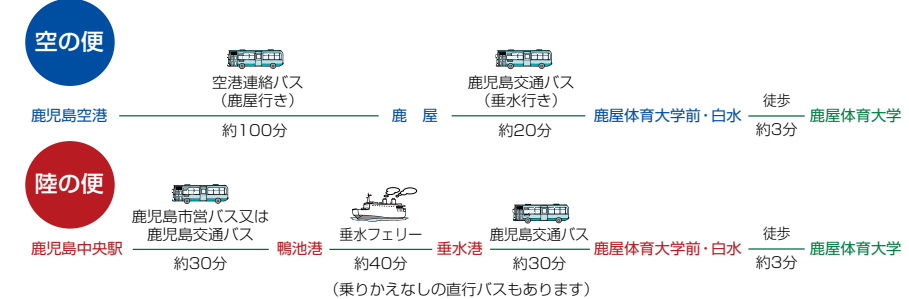
鹿屋体育大学
〒891-2393
鹿屋市白水町1番地

鹿屋体育大学
海洋スポーツセンター
〒893-0054
鹿屋市高須町2457番地



公式マスコットキャラクター
バララン

本学までの交通機関



問合先一覧

入試・オープンキャンパス等	教務課	☎0994-46-4869	nyushi@nifs-k.ac.jp
履修・各種証明書等	教務課	☎0994-46-4865	kyoumu1@nifs-k.ac.jp
就職・求人	教務課	☎0994-46-4883	gaku-in@nifs-k.ac.jp
施設見学	総務課	☎0994-46-4816	soumu@nifs-k.ac.jp
公開講座	広報・企画室	☎0994-46-4818	kouhou@nifs-k.ac.jp
施設利用	施設課	☎0994-46-4852	sisetu@nifs-k.ac.jp
附属図書館	国際・学術情報課	☎0994-46-4874	jyo-sa@nifs-k.ac.jp
海洋スポーツセンター	海洋スポーツセンター	☎0994-47-2758	kaispo@nifs-k.ac.jp

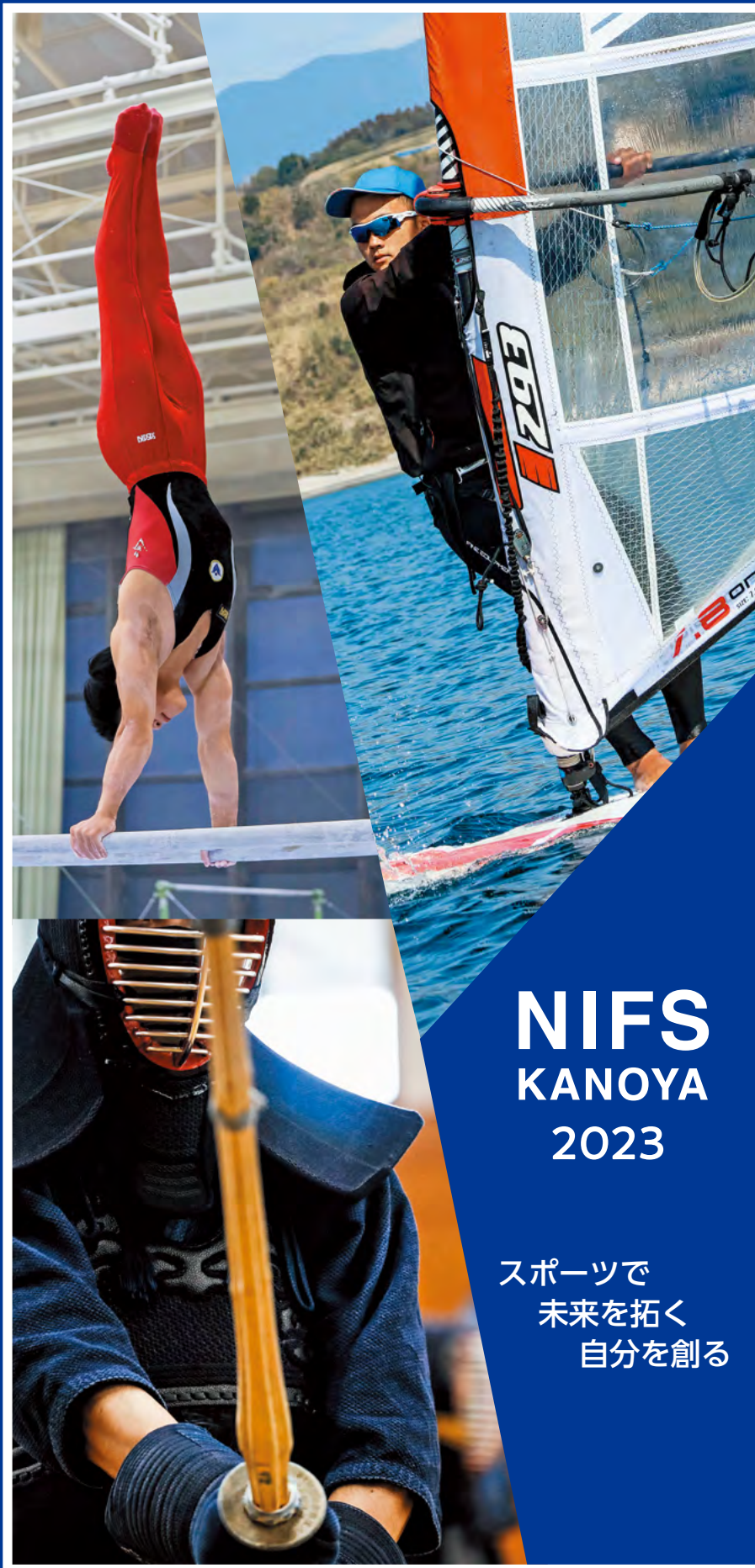


国立大学法人 鹿屋体育大学
National Institute of Fitness and Sports in KANOYA



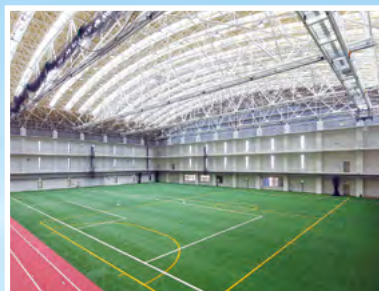
公式HP

〒891-2393 鹿児島県鹿屋市白水町1番地
TEL 0994-46-4111・FAX 0994-46-2831 URL <https://www.nifs-k.ac.jp/>



NIFS
KANOYA
2023

スポーツで
未来を拓く
自分を創る



● SPORTECスポーツパフォーマンス研究センター
スポーツ現場の実践知を科学的エビデンスとして創出し、活動現場へ還元するスポーツパフォーマンス研究を推進するための、国内初の最先端研究設備を備えた屋内研究施設



● 附属図書館



● 大学正門



● トレーニング環境シミュレータ
(スポーツトレーニング教育研究センター内)



● 体操練習室(総合体育館2F)

■ 大学の基本的目標

～スポーツで未来を拓く 自分を創る～

国立大学法人鹿屋体育大学は、国立唯一の体育大学であるという特徴を余すことなく活かし、スポーツ・武道及び体育・健康づくり・競技力向上において、他の大学ではなしない取り組みに挑戦し続ける。

そのために、研究活動で様々な知見を獲得し、得られた知見を教育により学生に伝え、社会で活躍できる人材として輩出すると同時に、得られた知見を社会に対し積極的に発信するほか、社会からの多様な要請に応えるべく大学の英知を結集し、社会の発展のために貢献する。

以上のことを実現するため、これまで培ってきた大学の成果も踏まえ、第4期中期目標・中期計画の基本的な方針を以下に示す。

【1】教育に関する目標

学 部：スポーツ・武道及び体育・健康づくり・競技力向上における研究成果に基づいた教育を通して、国民のスポーツ・健康及び武道を適切に指導し得る専門的な知識と実践力を有し、市民性・国際性を備えた有為な人材を養成する。

大学院：国民のニーズに応じた適切なスポーツ・武道及び身体運動の指導やマネジメント及びプログラム開発、トッパススリートに対する科学的なトレーニングの指導やメニュー開発ができる能力を備えた高度専門職業人として、国内及び国際社会で活躍できる中核的な役割を担う人材を養成する。

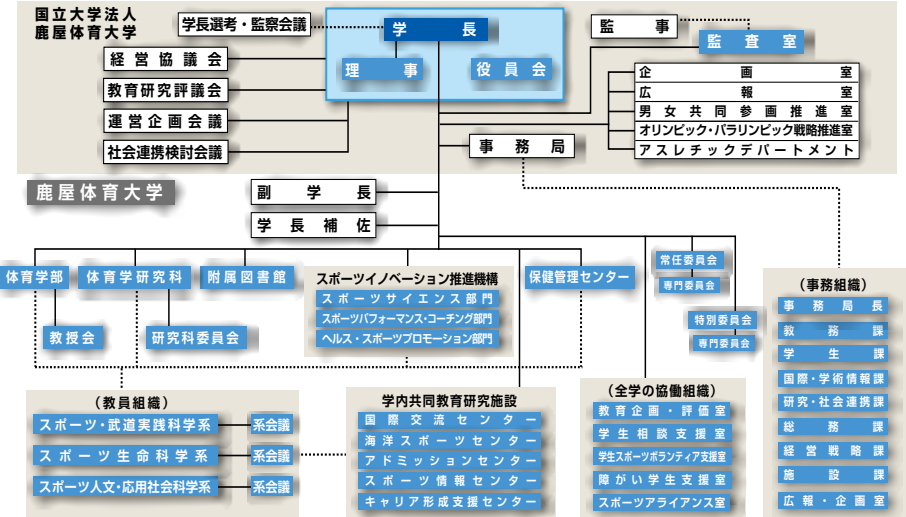
【2】研究に関する目標

スポーツ・武道及び体育・健康づくり・競技力向上において、本学の基礎的・応用的・実践的領域での研究を推進する。また、幅広い学問領域からなるスポーツ科学をはじめ、領域を超えた学際的な研究を推進する。

■ 沿革

昭和 56 年（1981）	10 月 1 日	鹿屋体育大学設置
昭和 59 年（1984）	4 月 1 日	学生受入れ
昭和 60 年（1985）	4 月 1 日	外国語教育センター設置
昭和 62 年（1987）	4 月 1 日	海洋スポーツセンター設置
昭和 63 年（1988）	4 月 1 日	大学院体育学研究科体育学専攻（修士課程）設置
昭和 63 年（1988）	5 月 25 日	保健管理センター設置
平成 6 年（1994）	5 月 20 日	スポーツトレーニング教育研究センター設置
平成 10 年（1998）	12 月 1 日	スポーツ情報センター設置
平成 13 年（2001）	4 月 1 日	生涯スポーツ実践センター設置
平成 15 年（2003）	4 月 1 日	アドミッションセンター設置
平成 16 年（2004）	4 月 1 日	国立大学法人鹿屋体育大学設立 大学院体育学研究科体育学専攻（博士後期課程）設置
平成 18 年（2006）	4 月 1 日	体育・スポーツ課程をスポーツ総合課程に名称変更
平成 21 年（2009）	8 月 1 日	東京サテライトキャンパス開設
平成 23 年（2011）	4 月 1 日	外国語教育センターを国際交流センターに名称変更
平成 27 年（2015）	3 月	スポーツパフォーマンス研究棟竣工
平成 28 年（2016）	4 月 1 日	筑波大学との共同専攻設置 ・大学院体育学研究科スポーツ国際開発学共同専攻（修士課程） ・大学院体育学研究科大学体育スポーツ高度化共同専攻（3年制博士課程）
平成 30 年（2018）	4 月 1 日	スポーツパフォーマンス研究センター設置
令和 3 年（2021）	6 月 1 日	キャリア形成支援センター設置
令和 3 年（2021）	12 月 31 日	東京サテライトキャンパス廃止
令和 4 年（2022）	10 月	鹿屋体育大学ピジョン「NIFS NEXT30」策定
令和 5 年（2023）	1 月 1 日	スポーツイノベーション推進機構設置
令和 5 年（2023）	3 月 31 日	3つのセンターの機能を推進機構の3部門へ移管 （スポーツトレーニング教育研究センター⇒スポーツサイエンス部門） （スポーツパフォーマンス研究センター⇒スポーツパフォーマンス・コーチング部門） （生涯スポーツ実践センター⇒ヘルス・スポーツプロモーション部門）

■ 鹿屋体育大学機構図（令和5年5月1日現在）

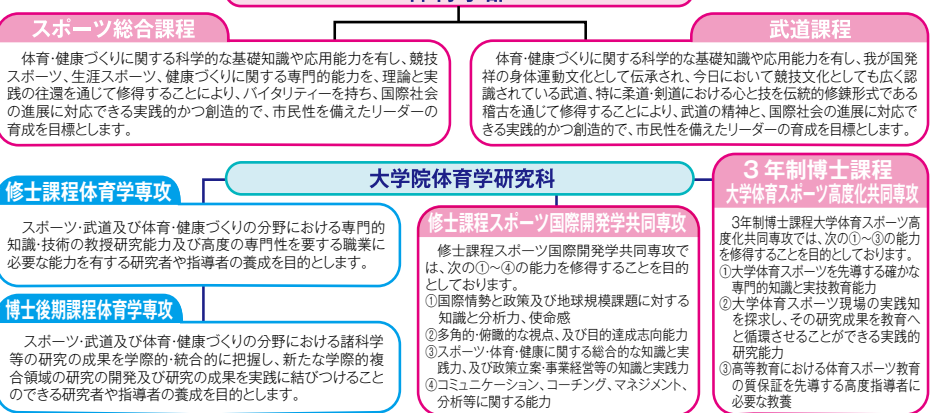


■ 役職員数（令和5年5月1日現在）

スポーツ・武道実践科学系 26					スポーツ生命科学系 14					スポーツ人文・応用社会科学系 20				
役員等					教員					事務系職員				
学長	理事	監事	副学長	教授	准教授	講師	助教	特任教員		事務系職員	役員員合計			
1	2(1)	(2)	[2]	22	15	16	7	8		72	143			

※【 】は兼務、役員等（ ）は非常勤で外数

■ 学部・大学院



■ 学生数（令和5年5月1日現在）

- 体育学部**（収容定員 700 名：スポーツ総合課程 480 名、武道課程 200 名、3年次編入学 20 名）

区 分	在籍者数				計	卒業生計 (S62－R4)
	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次		
スポーツ総合課程	132(28)	130(35)	149(40)	154(34)	565(137)	1,970
(体育・スポーツ課程)	—	—	—	—	—	2,427
武道課程	53 (13)	54 (17)	52 (18)	57 (13)	216 (61)	1,895
合 計	185 (41)	184 (52)	201 (58)	211 (47)	781 (198)	6,292

※（ ）は女子で内数

- 大学院体育学研究科体育学専攻**（収容定員 48 名：修士課程 30 名、博士後期課程 18 名）

区 分	在籍者数			計	修了生計 (H1－R4)
	1 年次	2 年次	3 年次		
修士課程	13(3)	28(6)	—	41(9)	603
博士後期課程	6(2)	5(2)	17(3)	28(7)	61

※（ ）は女子で内数

- 大学院体育学研究科共同専攻**（収容定員 12 名：修士課程 6 名、3年制博士課程 6 名）

区 分	在籍者数			計	修了生計 (H29－R4)
	1 年次	2 年次	3 年次		
修士課程	0(0)	2(0)	—	2(0)	8
3 年制博士課程	2(0)	2(0)	6(2)	10(2)	6

※（ ）は女子で内数

■ 入学者選抜状況（令和5年5月1日現在）

- 学 部**（入学定員 190 名：スポーツ総合課程 120 名、武道課程 50 名、3年次編入学 20 名）

区 分	志 願 者					入 学 者				
	SS	推薦	一般	その他	3年次編入	計	SS	推薦	一般	その他
体育学部	9 (1)	66 (20)	152 (26)	3 (0)	37 (6)	267 (53)	9 (1)	51 (16)	71 (11)	1 (0)
	3 (1)	28 (10)	38 (8)	1 (0)	1 (0)	71 (19)	3 (1)	22 (8)	27 (4)	1 (0)
計	12 (2)	94 (30)	190 (34)	4 (0)	38 (6)	338 (72)	12 (2)	73 (24)	98 (15)	2 (0)

※その他は特別選抜（社会人・帰国生徒）、私費外国人留学生1名 ※（ ）は女子で内数

- 大学院**（入学定員 26 名：体育学専攻修士課程 15 名、博士後期課程 6 名、共同専攻修士課程 3 名、3 年制博士課程 2 名）

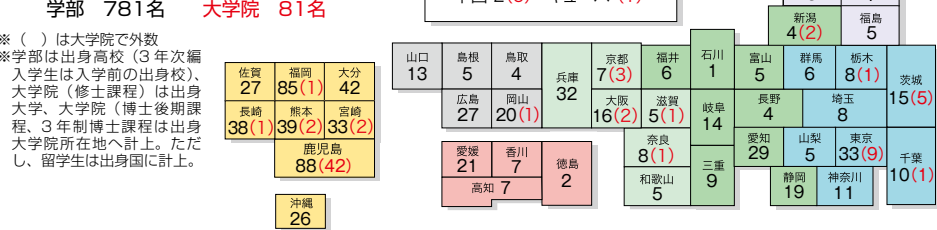
研究科	課 程	志願者	入学者
体育学研究科	修士課程	21 (5)	13 (3)
体育学専攻	博士後期課程	9 (2)	6 (2)
体育学研究科	修士課程	0 (0)	0 (0)
共同専攻	3 年制博士課程	2 (0)	2 (0)

※（ ）は女子で内数

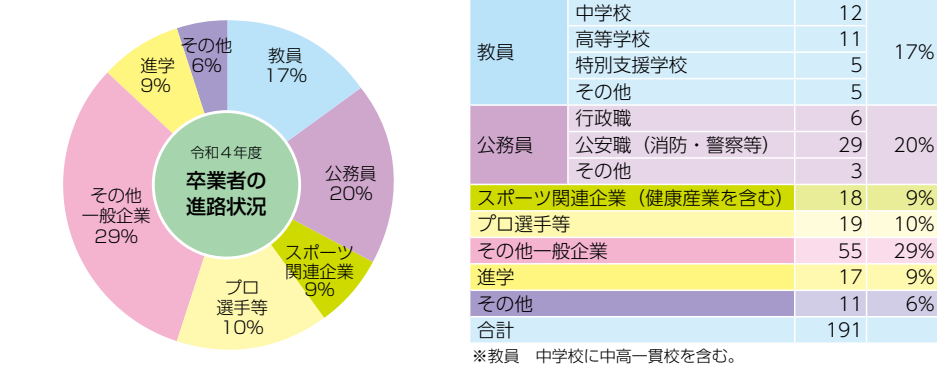
■ 出身校所在地別在学者数内訳

（令和5年5月1日現在）

【総 数】
学部 781名 大学院 81名



■ 卒業後の進路（令和4年度実績）



■ 課外活動

本学学生の約9割が課外活動に参加しています。

体育系課外活動団体			
陸上競技部	硬式野球部	テニ ス 部	男子バレーボール部
女子バレーボール部	男子バスケットボール部	女子バスケットボール部	サッカー部
ラグビー部	体操競技部	水 泳 部	柔 道 部
剣 道 部	ヨ ッ ト 部	漕 艇 部	自転車競技部
カ ャ ー 部	なぎなた部	セバタクロー部	ウインドサーフィン部
ゴ ル フ 部	ダン ス 部		

体育系課外活動団体加入率：92.8%
（令和5年5月1日現在）

■ 特色ある取り組み

● Blue Winds事業による地域密着型の社会貢献活動

本学では、大学スポーツを通して、鹿屋市をはじめとした地域の交流の輪を広げ、地域活性化に寄与する取り組みを行っています。「Blue Winds」とは、鹿屋市と共同で創設した地域密着スポーツブランド名です。

この取り組みの一環として、大学の体育施設等を活用した市民参加型イベント（みんなのタイムトライアル）や大学スポーツ観戦、応援イベント（カレッジスポーツデー）等を実施し、スポーツを「する・みる・ささる」文化を醸成することで、大学スポーツの振興による地域社会の発展と活性化に貢献しています。



● 学生の競技力向上への支援

学生の競技力向上に向けて「重点強化指定選手・チーム」を毎年度決定し、重点的に支援を行っています。令和4年度は、体操競技部が第76回全日本体操団体選手権で3位、剣道部、陸上競技部、自転車競技部、カヌー部、なぎなた部が全日本学生選手権で優勝するなど、好成績に結びつきました。

また、毎年度4月に、日頃から競技力の向上に励む全ての学生、その育成にあたる教員等が一堂に会し、それぞれの分野における成果の発表と情報交換を行う「競技力向上の会」を開催し、学生が全国的さらには国際的トッパススリートを目指すための志気の高揚を図っています。

● 国民の健康寿命の延伸やスポーツの推進に向けた取り組み

地域の高齢者を対象とした介護・認知症予防活動の支援として各種健康運動を展開しています。そのひとつ「スクエアステップ」の活動は、地域公民館活動（高齢者サロン）として広がっています。

そのほか、アフターコロナでの新たな運動・スポーツ推進として職場での運動プログラム（健康経営プログラム）の提供、本学陸上競技場等を使った「みんなのタイムトライアル」、みるスポーツの推進事業「スポーツをカタルガ！」等、地域に密着した取り組みを行っています。

● 子どもの運動プログラム～Exseed（エクシード）プロジェクト

Exseed（エクシード）®プロジェクトとは、地元の研究協力校と協同して蓄積したデータに基づき開発した子どもの運動プログラムを社会に普及し、幼少期から運動に取り組むことを習慣化してほしいという想いを込めた活動です。このプログラムは、5分間で実施でき、運動の基礎となる動作を含んだダンス風エクササイズとなっています。令和4年度より学校現場等への幅広い普及を目的として、指導者講習会および指導者認定を行っています。※ Exseed（エクシード）とは、Exercise（運動）と Seed（種）の造語です。鹿屋体育大学では「Exseed」の商標を取得しています。

● スポーツパフォーマンス研究の推進

本学では、スポーツ現場の実践知を科学的エビデンスとして創出・蓄積し、活動現場へ還元する「スポーツパフォーマンス研究」を推進するための取組を進めています。最先端の研究設備を備えた SPORTeCスポーツパフォーマンス研究センターを活用して、スポーツパフォーマンスを科学的に分析する実践研究を推進し、国内外のトッパススリートの競技力向上につながる科学的サポートを実施しています。また、ウェブジャーナル「スポーツパフォーマンス研究」において、競技力向上のためのトレーニング法等、スポーツにおける実践活動に寄与する知見を広く公表しています。

■ 附属図書館 ★どなたでもご利用いただけます。

開 館 時 間	授業期間	平日／8:30～21:00 土曜日／9:00～17:00 日曜日／13:00～17:00
	休業期間	平日／9:00～17:00
	休 館 日	祝日、休業期間中の土曜日・日曜日、開学記念日（10月1日）、年末年始（12月28日～1月4日）、夏季一斉休業期間となっています。（その他臨時に休館することがあります。）

■ 国際交流協定大学（令和5年5月1日現在）

大 学 名	国（地域）名	大 学 名	国（地域）名
上海体育学院	中国	韓国体育大学校	韓国
渤海大学	中国	韓国海洋大学校	韓国
天津体育学院	中国	海洋科学技術大学	
国立体育大学	台湾	スプリングフィールド大学	アメリカ
国立台湾体育運動大学	台湾	ケルン体育大学	ドイツ
ウィルフリッドローリエ大学	カナダ		

■ 本学と連携・協力している機関

- 独立行政法人 国立青少年教育振興機構 国立大隅青少年自然の家（おおすみくん家）**

連携事項：相互の人的・知的資源の交流と物的資源の活用によるスポーツ体験活動等を通じた社会貢献及び教育研究分野の発展に資するための連携・協力事業など（H18.11.2～）

- 独立行政法人 日本スポーツ振興センター 国立スポーツ科学センター（JISS）**

連携事項：体育・スポーツ科学の研究分野の進展、大学院教育の連携など（H19.4.1～）

- 鹿屋市・垂水市**

連携事項：教育・文化・スポーツの振興、健康及び福祉の充実、まちづくり、地域産業の活性化、生涯学習の推進など（鹿屋市 H22.10.1～、垂水市 H29.3.29～）

- 国立大学法人 筑波大学**

連携事項：体育・スポーツ分野における教育研究の発展、本分野における我が国の先導的役割を果たしていくための事業展開など（H24.4.26～）、大学院における共同教育課程の設置（H27.2.20～）

- 国立大学法人 熊本大学大学院教育学研究科・国立大学法人 鹿児島大学大学院教育学研究科・国立大学法人 宮崎大学大学院教育学研究科（教育学部）**

連携事項：「体育学・スポーツ科学連携大学院教育プログラム」実施に向けた事業の推進など（H26.4.1～熊本大学・鹿児島大学）（H30.4.1～ 宮崎大学）

- 国立大学法人 奈良先端科学技術大学院大学・独立行政法人 日本スポーツ振興センター**

連携事項：「スポーツエンジニアリング分野」における研究の推進及び人材の育成並びに社会の発展に寄与することを目的とした連携（H27.6.12～）

- 学校法人二階堂学園 日本女子体育大学・学校法人順天堂 順天堂大学・学校法人 早稲田大学スポーツ科学学術院**

連携事項：体育・スポーツ分野における教育研究を発展させることを目的とした連携（H27.7～）

- 株式会社 南日本放送**

連携事項：鹿児島県内のスポーツによる発展に寄与することを目的とした番組制作及び放送事業展開など（H27.8.4～）

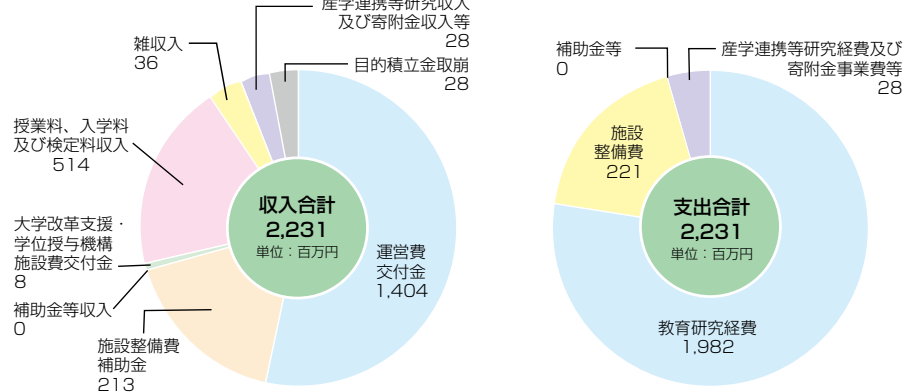
- 鹿児島県**

連携事項：ジャパンアスリートトレーニングセンター大隅の利用促進と陸上競技の競技力向上など（H30.11.26～）

■ 大学開放事業（令和5年5月現在実施予定）

●公開講座 15 講座		●学長杯スポーツ大会	
講座区分	開設数	大会種目	開催時期
ス ポ ー ツ 講 座	9	オープンヨットレース	8月
健 康 講 座	4	破 魔 投 げ 大 会	11月
一 般 教 養 講 座	2	サ ッ カ ー 大 会	未定

■ 令和5年度収支予算



※ 記載金額は百万円単位とし、表示単位未満は四捨五入して表示